

12月21日(月)

「主はこの卑しいはしために目を留めてくださったからです。」(ルカ1:48)

受胎告知を受けたマリヤの賛歌の一節です。

主はたくさんいる女性の中からマリヤに目を留められ、マリヤに恵みを注がれました。

主の愛は世界の人々を包みます。しかし同時に、主に声をかけられた者、イエスを抱き、イエスに抱かれ、教会に連なる者となった私たちだけが、「主は私に目を留めてくださった」と感謝にあふれて、主の愛を実感することができます。

主の愛を実感することこそ、信仰と感謝の源です。主が私の一日に目を留めていてくださることを実感することができますように。主が私を忘れておられないからこそ、主を信じ、主を慕うことができます。



12月22日(火)

「ひとりのサマリヤの女が水をくみに来た。イエスは『わたしに水を飲ませて下さい』と言われた。」(ヨハネ4:7)

だれとも関わりたくない女性。周囲の人もこの

女性を避けていました。しかし、彼女にも「神の賜物」を受ける資格はあります。

イエスは、疲れてサマリヤの井戸に座っていた真昼に、この女性に声をかけます。私たちは人と関わることの大変さを知っています。でも関われば、重荷も増えます。

関わるとは、慈しみのあらわれです。主よ、あなたは私に目を留め、私のさまざまな問題と関わってくださいました。私の祈りに耳を傾けてくださいました。それはあなたが私を愛しておられることの証しです。

主よ、私の限られた愛で、私に関わるべき人を教えてください。関わり方を導いてください。そうすることで、その人を愛することができますように。

12月23日(水)

「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」(ピリピ4:6~7)

私たちは不安を抱くと、それを人に話します。気になっていること心配していることを人に相談します。そのような気持ちで、自分の思い煩いを主に知っていただくのが祈りです。

私たちは神がくださる平安によって「守られる」必要があります。悪しきものからサタンの誘惑か

ら守ってくださいと祈りますが、その悪しきものの最も強大な武器は、不安です。

心配事を主に知っていただいたら、主が代わりに心配してくださる、この言葉を心配に沈潜させていくことが大切です。



12月24日(木)

「わたしは失われたものを捜し、迷い出たものを連れ戻し、傷ついたものを包み、病気のものを力づける。」(エゼキエル34:16)

捕囚の民に示された、旧約聖書の救い主なる神のお姿は、イエス・キリストそのものでした。私たちが日々祈り、慕い、信頼している主は、失われたものを捜し、迷い出たものを連れ戻す、愛にあふれた方です。その厳しさ以上に、その近寄りがたいほど聖なるお姿以上に、罪人を捜し歩き、傷ついたものを包んでくださる方です。

クリスマスは、そのような主を仰いで、相も変わらず自分勝手な道を行く迷える羊のような私が悔い改め、主の愛に立ち返る時でなければなりません。主の愛は私たちの罪深さをいやします。主の愛に打たれるとき、私たちは変わります。

クリスマスの時に洗礼を受けた人は多いのではないのでしょうか。あの初心に帰って、失われた私、迷い出た私、傷ついた私が、病気の私が、主によっていやされる時となりますように。

12月25日（金）

「主はその母親を見てかわいそうに思い、『泣かなくてもよい』と言われた。」（ルカ7:13）

この世界には、また私たちの人生には、多くの悲しい出来事や失望の出来事があります。毎日のように、世界中で涙が、どこかで流されています。失望のため息がもれます。

主は憐れんでくださる方です。それだけでなく、「泣かなくてよい」「がっかりしなくてよい」と、主は私たちを支えてくださいます。

いや、実はイエスだけがそのような励ましと慰めを与えることができる方です。なぜなら、この方だけが、死をいのちへと、暗闇を光へと変える力を持っておられるからです。

そのような主を信仰によって心のうちに宿し、その主に導かれ、励まされて生きている自分を少しでもイメージすることができたら、どんなに私は変わるでしょう。



12月26日（土）



「神の国は、どのようなものと言えばよいでしょう。……それはからし種のようなものです。…地に蒔かれる種の中で、一番小さいのですが、それが蒔かれると、生長して……」

（マルコ4：30～32）

クリスマスは、キリストがこの世界に来られること、つまり神の国がこの世界に始まることを意味します。それは大きな出来事ではなく、からし種のような小さな始まりでした。

私たちにとってのクリスマスは、キリストが私たちの心に蒔かれる小さな種、「みことば」から始まります。

それが時間をかけて、芽を出し、根を張っていくときに、私たちの心の中に神の国が広がっていきます。はじまりは種のような小さなみことば、そしてそれをきちんと受け止める素直な心です。主よ、私にみことばを与えてください。

今年を締めくくるにあたり、新しい年を迎えるにあたり、みことばをください。

みことばと共に行くアドベント

2015

第4週

